



85

80

75

70

65

15 絶句とよ

伊地知氏書冊

世の中れどもかにじりわらのねをゆくよ
ひもとすね和歌うるそめうきなまて
みづひよぬひゆきどくらむゆことの葉代う
けあひとけふとと。是ハ娘せ重う下れりめ
あとそればジの耳もやがはつあす。人ハ重
後あと八條代ととよとおしがりとにいきれ
くたうちやむ花うきわざかく。又高がりて
うのへうづくやじよ。とくゆうりびはるよ
まうひわるくくくくくくくくくくくくくく

大和音のたひ首より代へり。りづめよ。停歟。代
海のさざめのまめぬくとすまき。和泉乃御本の
あれくとすばりをくしゆかじとくへとよ
あすづねむすむわが。さかよけをもとをさを
もとゑへぬき。ばほくじふのこちをめとれく
のうきて。やのぐれにしほをあく。けり。あとよ
和寄の道。美のうた。擣ひすゑ。とく
覺き人のよもよす。竹とばかり。のうた。うる
らんづねれ。玄繁。石葉。河葉。よ書集。り。未
代。う。竹せん。うれ。未。水。無。流。河。も。う。が

えどそく。うつゆる。身と。うから。仰。は。ゆく
と。を。あ。す。り。お。に。し。せ。よ。か。り。お。の。く。お。り。お
い。で。感。よ。そ。て。と。そ。一。ゆ。す。り。た。廣。く。お。り。一
あると。か。ん。じ。あ。よ。名。と。う。き。二。系。大。箇。
代。よ。社。堂。と。え。ゆ。み。の。く。り。そ。び。め。す。に。與。と。そ
ぞ。あ。ゆ。し。う。だ。と。一。代。ゆ。よ。れ。か。ば。え。し。う。す
や。ゆ。す。ん。極。其。二。像。う。名。と。う。き。重。の。代。よ。は。笑
ひ。ま。う。の。よ。わ。や。せ。く。瓶。放。集。と。く。り。そ。う。き
と。あ。ぐ。八。第。と。と。く。て。う。の。り。と。見。あ。う。と。れ

たかさり火をもどせよやんのほどの
云ふは今集よどんでたのをよあらくお
食とけるもせばたにひざの草木ぬく
のまつよせばうきてお魚を物と見るやう
あるゆまと中止すれどもあわせとあ
せむとうやましはまくまくよかくまにやれ
まくまくはりとめんとされゆくやうじよ
てきあれぐらうはくしけくまゆけとゆる
あくにけんかん人の花竹のあくを漱のそでに
代りあくあくとおなまくあくとく奇の花竹

とにくしてゆきゆけはくれあと
くのとときりあせよとれめくらへと
ひとよ流れとくとけりまくらゆど寝くね
のまくね流くはく。とくのまくねくまくね
くわくく自とくねくまくねとあん。それくこの
くいへじとすくとくとあくらにぬく
とくの食と。冷泉の薬門よつまくひてくえ
くひたとまくひくいみへゆくとくまく。のく
けうの通とくわくとくわくまくねく。のく
くわく和萬じまくあひてくわくまくねく

きよみままであことと八林ノ村とあるがの泉也
庄とはくへてあらわる氷川^{アシカワ}溝も
深きと呼^{ハス}。アラヤの先や奥^{アシカ}アマモ^{アマモ}を
ひうれり^{ヒウレリ}あらとじよせよひむくを
ゆふす。アキモ^{アキモ}とおを絶^{スル}。

枝あらうすくらう。廣^{アツ}山^{サン}とぞひえと。やつはの
川^{カワ}とぞひやよ。たひくらうと河^{カワ}と
くよりてやうとなん^ハとふひきり^{ヒキリ}やうん
先達^{センダク}の申^{シテ}。御^{ミタマ}よりのしるひがめうと。遠^{アリ}よこ
そがうてゑてやうと。音^{ヒビ}かく人の云^{ヒム}と。あは

トよかばたく。えもね通^{スル}。えもまく^{スル}外
どまく^{スル}や成^セ。やうりやうつはくらひひくよ
めがれふとが志れて。すく。御^{ミタマ}よなれり。だら
とあくま^{スル}せやと。アラム^{スル}。ゆきバツ^{スル}がれ
不^可と月^{アシカ}雪^{スル}。あくとけり。とさしが^{スル}あ
のくよひのよはん^{スル}。ばまくじが^{スル}き人^{スル}。
いたく^{スル}。もくら^{スル}。とてあくびぬく^{スル}。
あひのうり。うりに丁^トとあくじうり。のうり
をう。詞^{シテ}。あくねらう。すきのあへかねる。
都^{アリ}人^{アリ}。玄^{アリ}に。中^{アリ}はのふ^{スル}がくれゆ^{スル}。

いのちかはすん。ち人のくひに夢とばらう
よもてがくらく休むとて作り。あらの
お捨のふくあくやう。ままは御とと
ままで休むゆめりといづ
いづ竹のえやへゆり衣
一束も向けね花を下す
けはのぶあらがたまへり衣付どとすや
じよぶえよひれりと
宏代のまつとくらりに毛づきく順定
うづきにうどくやりひ侍さん

さく娘のうきよりまがまく
かくわどまくまねのくす宅
さくひあつつきあーとづく申候
じすよの作とすくいのん
いくよくわね様ねの草ます
作にいぢるわらうるうく
おゆどこひまにぬりき
おゆどこひまにぬりき
野浦とくやひの作さん
おぐ浦とくやひの作さん

家信

信照

後鳥鶯

まのとまのあはれかく 因河

船行らしめす

船行らしめす

船のよひとてとあらまう

とぞとけぬはくは室馬とぞ。や。よ
やうれ人のむすびもすり。ゆの
えんあらよハゲトヒカニ。ベリ安と那
法人めめを。を紙ねさし。アハ一人あり。それ
バ古ヘテ最上ノ幽玄神とあへた。うどり。ば
もろぬるやう。うさん

秋の風のうすの扇の音がわく。秋の音で。ゆ
寝ねて今り。おがおがおのまとく。おも。おもとおを。寝整
ひそむを。おとづらぬ。扇の音のよからを。寝整
山里と家の雑木。そとお遠ひの人の袖ひ見てほ。お思

うれしの涼ひ。ソヨイ
臺わやとい。思ひ。そと。思ひ。おせと。そと。定家
ゆく。おわら。のあじ。人。翁。あく。あく。月
泥。じめ。や。ひ。き。と。思ひ。海。だ。の。ゆ
藏。食。と。食。あ。か。氣。用。わ。ぐ
かれく。や。新。う。代。あ。り。い。き。と
う。と。や。れ。く。わ。新。う。代。あ。り。い。き。と
夕。書。の。と。き。と。思ひ。や。こ。り。う。ん
は。お。れ。が。の。あ。う。ひ。ふ。港。の。く。ひ。よ。ハ。か。り。う。て。が。
む。よ。と。と。み。と。思ひ。國。食。ら。う。ま。や。な。ま

あへ。ひのとひへて秀道侍あり

いぬはに花の感とぞたわん

良弓

いたあくねがめに川のあそん

波浪

故の一しずすきあさく

日

かくゆくのがあはざるとはもひが

や

やん。えまととら合すてよき汝

日

しらすのそづりゆゑへとれん

日

ねをうれせとまめ花うば

日

すくとみのひつねよおれどまき

日

ひかへかひよくせよがまほ下人のまよ

日

ちうよやめのきなうべ

日

くとりすひよひよひよひよ

日

いすりきり各よめつて月ノ紋

日

ひかへくひくの物。ほよ自彌の夕をかること

日

お人の自彌の夕かく

日

見まじとれりくはやの都もとあそん

日

あひわねく葉の夕想ひよくはや

日

相思の夕想ひよくはや

日

えまじあひわねはや

日

見る今かんのをははの風のあひわね

日

改

はまね

とすめどゆのあるひんあをひきよ月をあけ
おこかやいはづら秋のまぐらんをもくまく
河のちや神よ橋り秋の若おとせね事とゆく
あそなうとひとく秋山よりさうかい松去れ
ありにきりあい神よ秋けくしとくとくとく
く枝をすがゆくか初秋よあともかをもゆく
大漫の月ようとくとくとく流松つひとく風吹く
志公の亭のうれ橋と疊きく巖なる方橋をのぞ
年とおわる葉ハそのとく尾上と疊の巖の夕暮
背くふゆとく一月のほ平岡の杜よ秋の林

日 家園

とく方よ深まつ秋風よめすすこ木の風
うねくとくよ風の氣とすすまくとく
葛城やあらの橋軍よきり立岡の奥よがる白毛
本ねやいじ翁さんとくとくとくとく秋の君わのい
とくもくとくとくとくとくとくとくとくとくと
はの國へはよいのまへ景あしや芦の林をよ風海を
よきりとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
紫のそづくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
公約などとくとくとくとくとくとくとくとくとく

みだりの名す。もあらどにさく。ばほのさうひ
よへゆるんひのじらひ。雲雷とめつり。さゆ
ゆゆん。はまのゆ。おみとまることり。とて。
あさづ天皇のう。わえとほをかわ
ど。唯万葉を今集。伊勢物語。かどのゆめ。
あるまひのえんよ。宿のす。うひ。源氏。徒衣
なり。あきとく。とく。とく。とく。とく。
ひげ。下へすと。おふす。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

るよ。やれ。わが。女房。あざと。とて。わ
ぶねと。と。や。侍。と。あ。ぐ。と。じ。え。ん。な
れ。う。よ。か。く。や。と。う。と。う。と。う。と。う。
れ。す。に。か。と。う。バ。か。で。う。た。よ。う。う。と。う。
や。わ。と。か。万。葉。の。と。う。と。う。と。う。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。

是とよくはのりて。鬼もひぐ神とまご
とまん。波多々鬼もひぐ神と天の中央
せうらう。されども是とまごといひ。世やあよ
きうるべ。ひくねぐれまわづめ。そ
とひくまとれ。ひくねぐれまわづめ。ね
あかふ。例の平櫻のねぐれまわづめ。れん
やくれ。じたハ花と実とをまわづめ。ま
くやう。古今集より。も実ハ花とまわづめ。ひ
とりかくらむやくよし人のむ花よ水ゆくともの花
き。又大じ称えんとまくと。すともとおぬがく。

と色ひて。坂あとを走すにめりとく。るかる
てくじ。もはぐにがくやけい。とのせす。實ハひ
とく。おうだくさん。ひく。ひまよき。すとくのむん
お。すとくのむん。すとくのむん。お。お。お。
すとくのむん。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
くさんする作志。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
うと秀歌とじぬととれて。も面鏡とくごとに
食鏡とくご。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
食鏡とくご。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

御の部とくらめて。解説三十韻。されば
あれはあらう。海をなむにあらぬべし。すまひとよ
哥れの後うさひもねがうて。眼ハシセム。
かほふかくとまきとも。やより。情もしく人
はりの如人。ト。ゆく。いふしの長あく大
きめす。故人の音。遂よ寝がひ。風。寝
よかぞく。と一。ゆくよ。竹と。中旅と。うる
きめす。故人の音。遂よ寝がひ。風。寝
よかぞく。と一。ゆくよ。竹と。中旅と。うる

りて。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
らと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
色ハ二。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
一。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
足と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
足と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
足と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
足と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
足と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

うりあらうん。

卷以齊

いふねて木の羽より。と。と。と。と。と。と。と。と。

小室

あらうとおきひらめいたよひまく氣勢あり立とてたゞ
やるはまうあらう
候ふる衣冠へととくぬからぬやまと彦よ
正徳

たれづく處か

あじやまよ都と庵わらとくさん
大窓

今あとほくまくとてとめ

日

あを歸りくらとねざれ

秋月

萩原

あみまつせき日ひみづく玉はく波

因河

明くらんに秀がとこゑきぬとくう
よやういへ。あくとむおとくとくとく
魚り。さく鷺くにわへず。さうがわ名奇その

松とまくど。おなれの秀句をとどけ
ぬりのすり。又緋よひきりてあくあくとくす
人なり。あくへてひとよぬひとそくゆりふ。あ
さくや伊人とかく

みにあよせ井をうきてのとまよとあらむと
黒鷺あくとくの歌り言ふ日の風に紛るひ
うすすきよいてとみのすきあくのあよ秋へわまた
あくとみの代浦の冬をよかす。代浦をこれほ
いはくわとれい翁とり翁より夕書ひとなつてよ

風うきがれ河夕鳥の宿す夏の夜あさり
天川秋の一吹葉とて此に床のなよやん
いあら名寄あらすにいとゆわす日暮が
下りそららむるまつる高井のれ 救済
そらねの月のこぼはれうめ 因み
凡秀をかくとて秀きうはうるるよし
とややふわれと秀るよかれど凡俗なるす
れゆくかんぶれの家形うるべくまう人の
はのうたへくくすれはよむとくれり神とよし
のやにや合ふるのゆふ様用ひよりく

くや大ひのとれゆにかづくやけんま
あなたとく。やくにあんの車代をあらぬ
し。それども安とあらとすむれば人のの
ちくせうとひとねやうみかりはくや定家
卿りをりくふをえたりは秀うとつねる文
不ゆくわれとくやするねへとくへくら
のよにやくにやくざくらへ。古人のすれ筋
さくは多ぬとくやう。むとくよれ天懸骨とぞ
十かとくのるをく。水結のねよほらり
そらやにとづく。是ハシヒく清れと也。

べくへりあやめかみとけきかやにてとひへを
とさーのびる。大内裏大極殿のま庭よ徳あ
ても。うねぬうにとくは如く。大なる附い虚
えとせぐらひときはあみく中ありある
や。津庵津眼の神愛ひとくらむつる。
詩す賈島の庭せうり。孟浩はさしとつる。
思ひなりそらの奇。飲食供奉う日も承今ア
ハリヤとヤ侍り

をかつ又後成のよ奇。食と飲ふるも
あくちて。我奇ニそらめはまでやくつての

おもわてよかあどりは一往よせ
きもつるやにゆ一室十らつらひよりの骨と
えんたるしこれく見ゆ。もうやうの人の
八耳カリひまゆとまゆ。我奇ノモと一處
よめりはとほりやにゆ。とよく人ゆと
て済よちりみてらひゆ。後成のゆきく
とあんのあしくてゆ。我奇のゆく
老くらしくてゆ。我奇。我奇ノハ婆達にか
くらね。それとは物語へす。我のうれくわ
たまく圓のまわり。海の天丸と骨とま

已聞の事うやまきを無く。それたばそり
お今よりもまれびとぞうかへととよひら
となんぬるりの才一のます。へうけじまく
はのう経てせつへんをしとて後とありま
す。とばかりゆきうぐがことよ続云とぞ
す。とばかりゆきうぐがことよ続云とぞ
うて解ぬかりもなむ。アのばいうちめうめ
よちりはい。

聞ひ乍らお悔とお悔の旨にて。哀あうま
やとと云ふ。づれぬえいひと鬼のます。お
のつはとて。とくのきをのやひをとつり

とすうちやべよ。遙われひ一座よどぶくよ
ふきり石よめで。子せ万代鷹巣有とみ
ひかどひわすんとくしてゆれ。かくいそひゆ
て。づきり人前とせ。わくす年と。あんがく
さく今月は。かとあへ。翁よア。モタハ。怪とれる。ふ
げのる。ひくみとくともうも。御射。い
みへ。うぐんへ。迷懐と。事とじのう。射也。
詩あり。せよ。一せうれへと。之とほと。ん。法。れ。み
じ經と。あく。めんと。らう。せ。敵。の。ま。と。銳。と。と。う。
あく。あく。の。せ。わ。ま。と。と。敵。の。ま。と。銳。と。と。う。

ひとう（ま）やうだりれす。徳ノ人もとくさん。
と立あととゆよめど。

のゆがくりて一種ハいはほくよふとくに來
却よ退かし。ゆる。これより取と用うつりけ
きなむかわやうにほんばくへゆる。いう様子
あらじきやん人の禮也。二味の大圓えぬをと
くやんざれき。一社へあくねもうゆくよ及
く。そぞりとゆどた御天より日晴よい
きくん一座まむくよくとゆくと。ゆくにあ
もく。安満夜のふとくとくとくとくつけの人の

沉鬱してまつりゆぢやうゆる。とまゆかうゆ
わくじくふとゆく。ゆく。沈思ノ人のゆくふ
とえどかむこゆ也。詞へてのぼくひととゆれ。と
まく人の胸中はくまくまく。おもづくら引のゆく
りゆき。秀逸とゆく。おもづくら引のゆく
ゆく。とゆく。ゆく。えんゆゆめく。世のゆく
ゆく。とゆく。ゆく。えんゆゆめく。世のゆく
ゆく。もあくくちひゆき。あ人の胸より。とゆく。ゆく
ゆき。二字二字の贊也。とくゆく。とくゆく。とく
くらくく。あいわのゆく。ゆく。あくる。因人のゆく
ゆく。ある物たり。後氣也。持政即帝

人をあわすの聞聲^{ヤツシ}の板店^{ヒキヤ}あれ
叶^{ハシ}きの二字の音より去^{カタマリ}め不可^{ハシマツル}視^{ムル}の事^{ハシ}よ仕^カ
や。枝^{ハシ}と^{ハシ}きれ高^{タカ}と極^{マツル}よと見^{シム}す。二字
枝^{ハシ}胸^{モモ}よろけりて^{モモ}よあすねうや一^{ハシ}やを^{モモ}作^ラ
居^{ハシ}いし。さて^{ハシ}波^{モモ}と^{ハシ}ひとき^{モモ}と^{ハシ}の塊^{モモ}。能^{モモ}
ク人^{ハシ}がハ^{ハシ}と^{ハシ}けて胸^{モモ}おれ少^{モモ}よどむも^{モモ}
は^{モモ}日^{モモ}と^{モモ}言^{ハシ}ふ^{モモ}や。庵^{モモ}の人^{ハシ}が^{モモ}ハ^{モモ}の^{モモ}と^{モモ}り^{モモ}
わ^{モモ}少^{モモ}所^{モモ}財^{モモ}な^{モモ}く^{モモ}ん^{モモ}。那^{モモ}ハ^{モモ}わ^{モモ}りて耳^{モモ}ハ^{モモ}き^{モモ}
ゆ^{モモ}よ達^{モモ}共^{モモ}よの^{モモ}なる人^{モモ}。一^{モモ}ノ^{モモ}神^{モモ}と^{モモ}と^{モモ}あ
て^{モモ}壁^{モモ}り^{モモ}と^{モモ}。一^{モモ}バ^{モモ}び^{モモ}ひ^{モモ}よ^{モモ}か^{モモ}や^{モモ}ん

先達^{モモ}の體^{モモ}。一^{モモ}ノ^{モモ}大^{モモ}有^{モモ}い^{モモ}づ^{モモ}れ^{モモ}神^{モモ}と^{モモ}と^{モモ}て^{モモ}ば^{モモ}ん
と^{モモ}と^{モモ}。一^{モモ}人^{モモ}と^{モモ}す^{モモ}よ^{モモ}や^{モモ}。ハ^{モモ}と^{モモ}り^{モモ}よ^{モモ}
ウ^{モモ}と^{モモ}も^{モモ}も^{モモ}お^{モモ}う^{モモ}。そ^{モモ}う^{モモ}れ^{モモ}と^{モモ}う^{モモ}や^{モモ}。人^{モモ}
教^{モモ}子^{モモ}ハ^{モモ}用^{モモ}し^{モモ}て^{モモ}活^{モモ}せ^{モモ}。ど^{モモ}う^{モモ}人^{モモ}ハ^{モモ}活^{モモ}し^{モモ}て^{モモ}不^{モモ}用^{モモ}と^{モモ}不^{モモ}宿^{モモ}
夷^{モモ}叔^{モモ}教^{モモ}と^{モモ}聖^{モモ}の^{モモ}活^{モモ}。傳^{モモ}チ^{モモ}ハ^{モモ}聖^{モモ}化^{モモ}れ^{モモ}。孔^{モモ}子^{モモ}と^{モモ}時^{モモ}
有^{モモ}や^{モモ}とい^{モモ}れ^{モモ}佛^{モモ}と^{モモ}そ^{モモ}兩^{モモ}足^{モモ}尊^{モモ}と^{モモ}仰^{モモ}尊^{モモ}。三^{モモ}家^{モモ}
の^{モモ}公^{モモ}ハ^{モモ}う^{モモ}け^{モモ}を^{モモ}り^{モモ}べ^{モモ}。

問道先達^{モモ}と^{モモ}學^{モモ}傳^{モモ}を^{モモ}あ^{モモ}る^{モモ}や。庶^{モモ}人^{モモ}の^{モモ}
詞^{モモ}と^{モモ}う^{モモ}く^{モモ}じ^{モモ}と^{モモ}仰^{モモ}尊^{モモ}。と^{モモ}う^{モモ}か^{モモ}る^{モモ}あ^{モモ}と^{モモ}
と^{モモ}あ^{モモ}と^{モモ}新^{モモ}と^{モモ}あ^{モモ}と^{モモ}。た^{モモ}と^{モモ}う^{モモ}け^{モモ}を^{モモ}ん^{モモ}人^{モモ}の^{モモ}響^{モモ}

古風りハ中くれば必ず也。邪なるをたのむて
はひひげ代賢聖よりとも詔みうべ。人代
のとひ深の桶にモトヘり。又白いとすら有
とヘり。又とまらてえぬくかつるわゆべ。佛
法とさとんに。若知識者是大因縁と云。無常
無性佛種涅槃とりテ

山山八の上よりあがへと原人よ成人されん
あれとどりきあとさんもや吸きるやとまづある
よ。また吹き音を。故に。ひより吹ひふ
とりあとそ活むよ。流り。而色が。ちま。のとを

あひよ入る。がつそれやよめぐれすと氣
うち。さては友とある人とあむだよや。大おの
よにせねよに侍し。ひづき。ありのれる。人よま
じく。んが。かえり。あ。まし。と。あ。の。た。ん
友よまく。ゆ。寂。利。あり。べ。い。ゆ。う。う。志。めり
き。る。神。ゆ。く。ふ。物。れ。う。御。く。ち。う。と。け。ね。人
の。一。あ。家。し。交。往。き。ば。う。れ。一。神。ひ。あ。ま。く。や。侍。ん
子。献。ハ。安。道。と。あ。て。も。あ。ふ。掉。と。ち。と。興。つ。き。て
海。と。く。安。道。よ。あ。ふ。も。く。し。そ。あ。ま。け。う。く
た。れ。と。く。侍。ま。立。ぬ。う。こ。と。く。海。瀆。と。く。し。と。に

義ありきより如て。仁者ハ能人と云ひ。よ
く人をあくさんするといふもんだとあひや。又
お朝からて歯牙。琴のとくものいとひ。もん人
とるんとぶりでモ友とえよ。お父とるんとさう
をみとるよとひ。と和へと詞かれ。太翁
みと善友親近と才一とすと云。因縁生りゆよ
自性が

八九十九年連秋へいふあるやへれまづか
さえびとの耳うす面白是作ほんとたかくと
うるいづづきへたしへまづわざくさひよ

入らぬ人の如きよりす。不思妄想の事。親句
和懷神をせばまこと作め。すこしう幽玄の
とく。わざら寧人の意りあはざるや作ぞ。人
定家の事。あはて。勝月長よ化女。而新らよ。歌
きてきくせもん匂ひゆ。おぞのすとん。
八九未人の奇とく只人のわとのこゑ作せりや。
わるまほ人のめぐれ云々不可復奇なるべ。杜子
美う詩とある人うへとつるとやん。佛祖御
とと立ふ。上慢の達とまたく立せり。
應身報身まごへとまひ。法身にまくと絶く

あべへ世よかべてやれりす。徳もと才一ノ人に
竹さんや。又どき人ふはれあり。どうかくまは
きともやされぬ。先達君あくし。大ひの世人
時めうきて。あら化もどりとゆきめ。うれし
けよき人よ。參め。んも。おおむすりあべへ人
あくと死にゆく。まよ。あくと死にゆく。
あ死人ゆく。まよ。あくと死にゆく。首よりねこ
そだりよ人よ。まよ。あくと死にゆく。人よ。まよ
あくと死にゆく。まよ。死みしゆよ。あくと死にゆく。不
まけのじん。ざんきよどき。あふ。ざんきよどき。わざい。徳の徳名よ
女郎人の善者好きを不善者悪く。徳の徳名よ

トニ億の人ハきよだよ。洞窟の松のひまう。老いた
とう。むとひいぐにて。うきうひよ入竹さん。人や。竹
一派ほの門よ入ての刀源とみせん。うひたとま
まびく。表すきよとさとくん行。ひかと。ひを
きわとみゆき。あくと死にゆく。まよ。死みしゆよ。あくと死にゆく。
あ死人ゆく。まよ。あくと死にゆく。首よりねこ
そだりよ人よ。まよ。あくと死にゆく。人よ。まよ
あくと死にゆく。まよ。死みしゆよ。あくと死にゆく。不
まけのじん。ざんきよどき。あふ。ざんきよどき。わざい。徳の徳名よ
女郎人の善者好きを不善者悪く。徳の徳名よ

残りをよその折よりひく。せかへ幻のうらよ。去来
きるあきもやじうにも變じて。すくまわね
身のよがみじうわくもくれきし。秋のいのちの
みて。百とぞかとせと。むかひがく。よもあきう
名すめで。かくごゆゑとちりまさひあらと
とあふれ。ほかはと灰となれゆ。皮息の一そじ
いつらふり。ゆく。我のこすす万象のとれき
きし。それふととあきわへり。され。
かく人のやうなうふするくとて。あたとく
らぬやうに。極ととく。とやいと。とす

産よらけよきよよはれ。さと都々
さとあかべ。まれど。ひとよひくとく
いとつやんがよ。さとくよとく
きる人よ。よたりにえと。花れやよがと
じるまと。とく。とあく。ひかとく。とく。よ
竹と。やとく。とあく。ひかとく。とく。よ
す。あく。ひかとく。とあく。えんよもくとく
あく。ひかとく。とあく。えんよもくとく
大日よ詠。とせ。之内卿。ハ血と。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

は云々。徳宗よ。おと雖ざれく死と。死と。代藩岳とやん。御と。沉思と。く二十も。白扇と。され。かく。佛。御。最上醜。醜味といふ。いふ。称多の。と。云々。一
御。御。ハ。い。た。と。せ。よ。文。て。お。れ。お。ま。し。と。是。御。一
古。人。徳。徳。一。お。れ。し。人の。よ。う。り。皆。が。じ。と。よ
名。と。ち。へ。お。れ。さ。う。よ。む。と。け。わ。り。く。わ。り。よ。う。い
い。ま。る。に。は。て。閑。居。と。か。こ。と。あ。れ。ね。と。か。ん。や。、
室。家。の。う。お。と。い。き。め。く。や。、
さ。う。に。と。れ。め。の。よ。ま。り。く。れ。灯。う。ぐ。う。み。く
酒。さ。う。れ。れ。ら。じ。し。て。ひ。で。き。ね。わ。せ。お。れ。ハ。酒。で。す

ひ。下。り。よ。セ。と。か。ん。モ。又。ひ。れ。よ。う。お。ひ。と。と。御。よ
秀。逸。と。お。あ。べ。き。れ。深。文。よ。う。お。ゆ。が。そ。く。お。う。あ
き。う。の。よ。し。ひ。お。か。く。れ。す。け。ひ。う。う。う。け。お
き。あ。が。一。耳。を。ひ。き。入。あ。ひ。腸。息。よ。う。り。柏。火
桶。と。い。う。き。詠。今。ア。ト。お。あ。ひ。や。あ。リ。、お。う。け
人。お。う。め。り。わ。る。よ。た。ま。く。う。ら。う。ふ。う。よ。う。を
お。れ。う。れ。と。か。ん。お。と。と。い。お。入。多。お。湯。肩。絆
と。お。お。室。ア。ス。十。そ。お。ぞ。み。の。お。ぞ。れ。き。と
お。ん。お。脚。書。八。の。御。よ。あ。時。ア。奇。私。下。れ。す

とやうむとゆうくさるとゆうへ。定家卿
と葉舟。あくまつひんとゆうあなぐいとよ。
わがうすみと感極とゆうじゆくとれん。
引はれりぬとくらひもす。の身を教えひよ
まくとて。説くとゆうとよくあ。ばーとあ
まちとよく。彼はせすりを達する。いつきのたと
わらわゆり。上はかとくかくとくせ。そをと
おもくとく。沈思せ。かあどとくとくわらくと
う。無心化むる志。ハちゆへるよりうわ
ら。どうそすたのよすい。ほんのゆうそを

とくえびとゆうくさるとゆうへ。定家卿
うけゆめり。あくまつひんとゆうあなぐいとよ。
眼とくわらひ。あくまつひんとゆうへ。ま
部に鄙人をと。ゆふとくわらひ。とくわらひ
井てきて。ゆくとくて。ゆくとく。役面をひ
かひか。遙よ。首とて。とくわらひ。役面をひ
人りゆふと。ゆふと。胸のゆふと。ゆくとく。他
内室ゆふと。ゆくと。ゆくと。ひたの役室と。ゆ
ふと。家用。後感つも。ゆふと。それた
と役室ゆふと。ゆくと。ゆくと。半のあ

あらやうり。翠とよしんめべ

川道傍（けい）おどけてては臂（のひ）折（ちぎ）れてしめやうゆ
くやうりん。雲霄（けいせう）やまとつてしめり工生眉（くわうび）
ゆくゆくゆくひ忍（しのぶ）たくとくじめや。又す一日よ
とふかとうくえどもさうり。けはせ一のえへふく
がくかとりよま縫（ぬい）け。二日からくにあをやくば
をくくとく。もくへだよどぐてゆくす
ゆくとく。又楚（ちく）の病（びやう）きずなとくめてゆく
すはくくいとえくくきぬよひてほ鄰（となり）
ゆて。ひたひいてぬれくぬれりんとへりけれ

さくさくみどりをやくん。數（すう）すハ底（そこ）よか紀付（とき）とま
かく竹れとよすくとくかくあれと後（あと）よまる
鶯（トリ）羽（は）れたり。

鄙（ひ）をよ人のよしがよ馳（はし）もかくらむとくのをや
ぐせとくすくらむとくすくわうりいひ。かな紀すと
あべ。あうへ人の衣（い）あひ縫（ぬい）と胸（は）ばかりよらる
めやら。騒（さわぎ）の人大きよくちくてのうけの
とめぐれ。往（む）くとく。我胸（わがは）うれはとうやひ
かめくの要（いのう）なりべ。清雲和尚常（じょうじょう）にやくすと
さん教（きょう）すハヨウうべ。毎（まい）人の音とく風（かぜ）と

教おとづれ、修羅えくろかとある。どりうきゆうかり。
先達せんだつの語ご、晚ばんの筆ひ工史こうしキ、中なか行ゆきす。あ
かれてよそへ一字いっしとぞとびて。す鐵てつ遠とほ編へん
廻まわ又また成なか乃の、めのめの人ひとへ付つけんもと元もと使つかは
うく百ひゃく額がくとはきて、前まへとやがん人のひと。
一いちの人のひとときて、かんままはうざざう下くだ。
小こ地じ道みち凡ふんが、よがんししよ極きわの後のち、世よ紀き人ひとを
一いちとりう。佛ぶつ法ぽ乃の教きょう、教きょう融ゆるままて、万まん象ぞう
とと捨すよよききととり、引ひかかれれ下くだ。
凡まん俗ぞくなるととよよく。いづから考かたそて、行ゆさん

姿すととのの凡まん俗ぞく行ゆべ、濟すのの凡まん俗ぞくハききくくす。

凡まん俗ぞくへととし、いづくくややゆゆん。

松まつののととん古おのの庵あととく。

豪ひのの風ふとと月つきののみみうちうち。
是これハ空そらのの行ゆきき風ふにに行ゆどど公こうトとかかよ
ややゆゆん。それの人ひとがねうんととて、夏なつのの月つきととめめゆゆん。

そととととききいいううげげししのの秋あき。

ひとひとののをを勢ぜいととややくく凡まん俗ぞく也や。

是これハ空そらいいううとと事ことわわれれる。

七事かどか二事か三事か。紫雲よりとわゑてる事
「そえんよ。」也。ハいづもとをりてひりて
うきしゆる。下也。

哥太へ因る。とて人への翁とちうす。れぐやき
めよ。やくとくや。まくす。いじ。竹。まや。先達が
たをや。やくまひよ。ひとけは。首。づきよ
や。まくや。人。かど。みるへくとく。が一字ニ字く
て。うち。ハド。は。とく。ん。まよ。被。物。れ。され。ば。さ
しゆうき。人。ち。す。と。り。と。云。あ。く。る。か。し。
ゆき。か。り。く。う。う。て。ま。く。く。の。壁。物。竹。か。寝。れ。き。

右人ハ大よ。事。一。め。や。侍。と。翁。人。首。家。に。ま。れ。ね。や
ぬ。と。と。や。され。け。る。よ。と。い。が。ね。て。後。翁。經。名。是。や
ば。内。や。ア。シ。セ。ト。ち。よ。と。く。と。の。も。と。の。も。と。の。翁。仙。の
を。下。れ。す。と。と。難。と。ら。ひ。き。れ。と。翁。
名。ふ。め。で。く。た。く。ゆ。す。か。く。る
ら。も。と。夕。く。も。よ。す。く。る

之

花。と。い。て。む。じ。き。も。あ。き。あ。か。い。れ
梅。の。花。わ。わ。る。も。じ。と。あ。き。あ。か。い。れ
化。去。い。づ。き。と。み。か。い。き。ん。ふ。便。り。お。と。い。う。き。れ

云めりかとてやまをさむ人のおへしの釣る。
世人のわといひつぎをあたりぐ。

都とそにまくはまれの市電
ふとくをねへまれ乃市電
ひがぞせり 以下 合作へども無り人之
とむすびに假者にゆねば中く やづく
及ばり。うごうれすゆゑをうけめぐきと
用よひゆふとて假よひよへまるとの繩
けり。ああふわゆりき風ん。ほく常
るけり。がれ入がるへゆき

木戻キアヤシハ波ミヅルマツノ風
ハオハチニ雨キモトマリハ人の心。されど
ちじめ文字のまたーへわざぬ。一月よ
きりきとみくはーのひくはーはだきうづれ
そあはきあとくゆ
夏景や美の面うす秋もく耶
ぬくはまとーあひてとくよ。ペジダゲー。こ
きくの縁あらよ。秀逸もじ。うけだまき。
哥太。未来花とてかくも向く。まわり。まくま
きたまくとてやじの風ん。皆く神くよ。皆く

さんげにてむすめうらぎより也

ありぐせよ天がまくわたりあ

部ふきとは秋の月和れ

紫のえづひ乃がおまじき氣アホ

又奇にまことの魚河と万葉集もりが

侍侍り。まくさうすみへい。ひ寄れむ

侍う。元号よもとく御。歌すうたよ高そとく

かちあべうて次

月岸のうわれとくもしけ

死やうくわが紀ふよしげハニモ

かううの風情を心ふるをふ風

哥の親の説がとて二の神わう。まくさうへまき

まくさう。ひまつ。まくさうのゆよがれせう。のよは

ごくせ。奇よハ妹のよ秀すやう。と這家の門

くじめをしてまくさうのせのや

和田の原のまくさうにまくさう

まくさうやよせやよおもとくまく

いきびとれえのうのねおいろ

おれの歌詞とくです。心ふくばるが

いおのうまくさうよひまく

珠白哥

本詩上

卷九

里遠き八教の爲り初よまたの事とまじひゆ
ことよどく人をもうりんあす。をもども見
鶯やむ池の汀のねすて都のやれらへとぞ
まことうるえり。お牧のタテ言わよりす。す
推のくふく。歌ふと本扶はヌル。やく。最明の由
はがれぬ。ひの哥。やの勝斗。ちかとにす。す。
親が付す。ばねりす。

お身りのとよをす。す。す。す。

良弓

わくし御とと今はふたり
片思ひ里れわたりとぬす。す
親の珠白のととくさをやべと。ひの哥
をちやく。ばねりす。

日

哥の篇序題與とも。曲流と云ひ。す。す。
さあぐらうや。先達語。す。す。す。の。す。す。
す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。
す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。す。
尼しじひもと。河。じ。う。す。

三下

月のうはおゆみ八重乃ねびづけ

枝風

足りぬふすかと抜れぬひきく
あはととげともむにあり

若荷

ちとふせゆ乃花の下もひ
改ニタハおの下れがよ曲のむあゆよ付かく篇序

頃定

而就乃とばくたりてうれしき

花見ふれぬれせ良

良局

おうめのやくわらまくらの房

いぐ入る御とそろ徳
二句は前へかよ曲のむりて。もすゝる徳よ
下かく篇序絶と折りて。ひもくらひ
也。連亨ハはよ上かくはなまく。下くよゆだ。下
下くよりひくとぞて。とくよいとせつ
きわとくと。わくよりひくと。のくよ
ハ感情秀送するべとつて。奇よひ因と二
まいくとく。わく序乃羽。底もあすく細
きわと。と景使かく。バ秀送とく全
きく小さひどり。也。絶ふを序正流

通とく。生と序分は極ぐれ因縁譬喻と後
く。後よ正宗うとく。も経り眼と云てす。流
通うとく。其經の法とまくにいひうが次
也。しきふとまくよなれだ。奇の篇序。
題奥流よ叶舞り。待かと起承轉合とりが
とめん。おとし。おとし。奇とく。序とく。
くよまぐるあり。首ハちりに詠すと
く。序。乃ちりくもく。やうり
寫や。月のめや。葉のめや。あらひとすや
哉や。食のめや。あらひとすや。食のめや
えや

山城の山がれす。あとからかくまくのじ。我ぞうれ
隣奥のあまえ。海の見のむかう。今よあれ。うれ
若狭の岩流す。のむれそぞう。人と思はせて
又中つかよや。とある。洞どとと。うぐく。をくわく
えやう

神乃いがれりひくじもれり行う
ゆ候アリての日ハモルナリメ

纏

うは、うきつわすく一そくも
候ヨドウのあされの若根、はのひ、周の

纏

心よりぬくまきとくにとくまき
入江八九郎とくまきをや

紫のみづひきくはくへとぬけりす
弓人六義とて、おのの歌とくらむ。まくよ
くわくよ、くわくよ、うや。先達者や。大前
ひ義のひうじくまきがよきて大前

歌

風

うへ弓乃公

名

ちゑく

弓

かく

弓

二條大岡橋

と都

ふよそく

とく

弓

道

よう

とく

とく

弓

賦

かくへ弓乃公

あは日ハ弓乃公

弓

かく

かく

弓

是ハ物とて、弓乃公

とて通

とく

とく

弓

ニキハ、弓乃公

とく

とく

とく

弓

歌

あは日ヘ弓乃公

七三

下りぐらゆにまつるえ牛小日

葛の家と薺よむうてあそぶくわみべ

奥 ぬと人奇乃心

え川面ハ星月ね風谷のみ

日

もハモロよゆづきもるとかく

もどうそとてゐれんかべ

雅 めでとと奇乃心

ありましれれ秋よりにすり黒

まくらよひひるか也。やけめぐらとく

くらは飛ひふたり

頃 いと井寄ひ心

花枝 みづけふま乃見きりくれ
やあ夜くるゆかべ一頃へか也。古今集のる
席の小短より。頃乃奇に花枝のまわぐと
ひり。げ小短とほよあふ人の書く利と之
をめり。ゆきば後義らむにゆほどとと難
とうへり。併ひはる河かすゆ。続る中短と
ひり。け絶句たはもく一ゆめり
歌とは代々詠合とて。作者の名はいづく
あ庭よまゆく乃ち。萬人よめひねまへ體れ
てがまでも。わきよめとあせ。まよりはらと

しのより肩すじきもや。体よ勢あま。今ま
でさすれ身のあれゆよりゆる初めあ候の事
し。我公乃御所とて。此れとて御うや。何と
にゆり侍とて近まわく速歌とおへど
た右よひて。高座たかざくくらへりとて。腰
脇廻わきまわと付侍るより。手ひくくわたりとて。腰
ひのほきてとて。あひばたれぬうちふをぬぐ
ややくん

歌の燕えんハ飛はりますとも。現あらわはくくとる
歌うたうへ燕えんひづくの々ののきよよ侍しわくん。愚痴ぐち

乃翁のうの歌うた字じよかあそとすとと見みゆる人ひと。
さす肩おき舞まいるや。けたけたひとよ爾そなへ公こうの歌うたなる
ゆく年とおもひあひゆり。あつき風かぜのうれ
おもへれぬおもへ。いふも老後おじごすり歌うたの歌うたへ
出來で侍し。家隆いえのりゅうは六十ろくじゅうよりて名參めいさん八方はっぽうを
かう。孔子こじんも四ナよナよく。もぞひずとせ。宋史そうし七十
あく学がくよれて。序じょ侍しよひて。御ごよひて。御ごよひて。御ごよひて。御ごよひて
よ志よしすり。可かせと。御ごよひて。御ごよひて。御ごよひて。御ごよひて。御ごよひて。御ごよひて
よ。又またよ候まことに。工史こうしのとて。召めして。御ごよひて。御ごよひて。御ごよひて。御ごよひて
さねめさねめ。おもひゆせ。歌うたよせ。おもひそと。おもひゆる。おもひゆる。

乞情あつきだひそくやう思ひとよ古のよの懶
とめて胸へ控りを忍耐く爲さん。さればたみ
はうち市内中に手をあがとて耳にみぞり通
たよいきかねど。よせと見るよすに外る。
聞く事くよ礼めひわらざり也。はた乃難能紫
はあひ叶ゆるけ也。あらへ何ぞと何ぞと一
念即極乃とすやとハ。堪能もう能し。のぞやか
なふもさへき。唯因と慰めて着ちぬ
處。佛のまぬぐれ方従みく川へまどく。
誰をひたよへ思ひより。す。おもてわづかうと

く粉かるとばかりよ侍。バ。眉門。惣門。く
ま人へ鳴舌よ化と。きゆく。佛も孔子
を人丸。叔子と。きゆく。ア。御。ア。通
元生性不受不同と。従。ア。ハ。凡應。長。ア。活よ
里。世よ感。ア。従。ア。侍。ア。先達と竟侍
る。君の法師也。ほ。門。ア。須是。伝。従。叔。従。宮。の
と其後更治無事へ。お。ア。ハ。ひとよ。叔。従。法。師
ひ。ア。ア。度。也。ほ。門。ア。用。阿。法。師。崇。服。が。ア。て。度。ん
あ。ア。ア。紀。わ。や。ア。皮。ア。身。ア。ま。ア。て。は。無。永。禁
り。梵。灯。窟。立。じ。た。ア。ア。火。ア。も。ア。く。也。ア。

水すり音叶川の秋月 楊白

宵ぬれよつむ木葉日

も年木にハキテ波度に象乃島場

あさき。今夜御宿

あけ月夜のあを夕月波度

凡ゆく花かぐまゆる小日

にしほうげゆどりへ志られれ

松の葉はわくどりへ志られれ

其後永享へゆり世よあられゆる宗砌法師

智庵が、波度の波度岩和引下に之く

作多く歌へたとぞきするやまくすらまくお

た御歌すとぞすせんやうやう

まくしく雪音ひうすひうとく

日 宗砌

おねの雪れ柳を河紙歌

日 智庵

皮お身ぬりて後びたえくかゆくかゆく

日 智庵

を清き岩がりおれ

日 智庵

又うきうれぬりとく

日 智庵

き人あはごいづきのえとつま紙の馬とよ

日 智庵

てうまへ走りを死ねどとぞ興
あれゆると忍んと。アモ聖ひいとんよの
シ。ふとよ一交なれば。それらの人あつてくわ
む。あるあつゆのせひとくと。お
もゆる。これあゆくと。おゆく
きの酒をあゆぐと。よとあゆハ。元よ高ね
れとや。ひたと。そとゆりと。んじと。今あ
ます。一たと。因縁と。わきめ。生死と。そ
捨と。後でと。先の法と。歩くと。まよ入

りんより。おまえひて。御印を付く。おは
ゆと。さくらと。死ゆれば。さう。溺りれが
ぬ。おと。おと。死の瀧て。ゆく。おと
使ひ。おと。ひて。同へ前の大歎と。おと。二世に
おれど見る人と。おと。おと。おと。おと。
おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。
おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。
おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。
おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。

乃不思議なる。それも天祐はるゝものいり
公はくや。何よりもさうもあらむれん
右へりかづく

幽玄句

神祇はうき祭を御内みゆふみく
吉日のうへすりひ乃去がすサ
まこととぬせとひへわ
か死ぬよひくうじとぶ家八席
白はとをかと人のねすとく
秋すくもりもれもりうち

順是
教説
修持

風へとよどでさじきはれ
秋もすととめうじてゆふ
ヨリねむへあくきりまち
松風もすりはととすん
長ちか

日
般般

かそよぢくにあじよび
春雨りきゆり巖りよばれく
わらじにとせきやぬは志うしが
れきうれきうちひや二年
たうちれふうとえとまきうち

順是
順是

周易

廻り称う魚釣る月夜人

日代をかくさぬ算の戸の中

ひる山のあはれし處す風ぬる

有心の物

まじめのひれひまゆる
りくしてひばとハシムモア
モドリハマリムタヌカヤセん

わのほのきれ秋もゆふる

松

高

十

良

ねり丁度まね舟の川
あらざりいおばのまづに日は暮れて
人よきゆく谷や
ぬうちあつゝ木のひのれ
わやにうきかむすみすみん
さく火のゆきえある鬼とそ
轍の外

信

日

月

松

月のうづりうらもうかく見えやぬよ

ま年より人へすうむかたを

こゆくよしハひとひ乃おき

舟へうらうきく老よすれられ

竿へうすひのあよもざれきく

いぼりもりへじやの月

さとうれりゆゑをくわく

繭か

月とそじうれあやうたりは

ねぬゆどみのよがく吹けく

高

轟

轟

轟

あるぬいよのハきねねねの街

お家やいわうれ野ととがくん

さひくきこよし浪りとを

駄かくひのいとてありねん

泉すくとおもふぐめ

住吉乃うらめもよ月立く

酒飲むね食うじたとよどく

かよしゆくあくのとよほのと

白ねが

うきゆきとけとをよ紙のぶれわ

三十二

日

轟

足どきよみよみよみよみよみ
旅のよもよもよもよもよもよも
秋よしよきよきよきよきよきよき
木すゑよのびらぬるまよみよみ
山のさんねのりとしら月いと
老ぬとばけりようくふみく
人のねじとわゆくふくされ
ねあはりとよれりとよれりとよれ
奉てんが

人ようひきんねじよみよみ
たのほ本のよもよもよもよも
ぬよひとよひとよひとよひとよ
よみやくよみやくよみやくよみ
よみよみとよみやくよみよみ
康乃ねあひよみよみよみよみ
身と持るのよみよみよみよみ
美ぬよなれば浦またにぬすぞ
舟よみよみよみよみよみよみ

一節のが

海のうらとそぞのうね井
行ゆうりのあら石立田河
人ひさしあわのねえやく
平地のよかゆよほぐれとれ
あり日氣とが魚をまつち
あひてとりひし食れのあれね
ぬうちきくとくとくあひて
極樂

入はれりやでやまを乃や

鳴鶴のが

雷公のめくひととせよ
武士の根と人のふくとゆくと
上り下りしるおがまくと
もどきゆる彦成川のゆ
いはづれにゆき半のとる
絃よけあたしむるくらひよ
足下の船の舟の舟の舟
よみのむねの舟の舟の舟

金澤

きどりづににとあがめん
新らきめすれ里に佐あづ

強力のが

ゆわじよりえゆうあづき
あきよひ代久に見えり

いのちおとハ木づる

老のほりかざれふとくらみ
ねてとくれり紙あくねる

けもべき月のさざまづ

伝熙

かくよつ秋の山雨とおりよみ
ひくもわうねぐといそくせ
霜と見くもきみぬこひ日を、 檜

住者小蛇と登熙詰ぞれ唯へようよ
す筆にゆきせくやけせ殊よやみのう
はくらむればあうかたよりを

けめののまづき上

私語上終

四十四

